

国立民族学博物館研究報告 vol.6-2; 表紙, 目次ほか

雑誌名	国立民族学博物館研究報告
巻	6
号	2
発行年	1981-10-31
URL	http://hdl.handle.net/10502/00009249

1981・6 6_卷2_号

国立民族学博物館 研究報告



県民性再考——文章完成法テストにあらわれた日本人パーソナリティの地域差—— 祖父江孝男

縄文時代の人間—植物関係—食料生産の出現過程—— 西田正規

チノギ賽神における祖上と神霊——韓国京畿道楊州郡K洞の事例—— 重松真由美

言語的プリコラージュとしてのフォークロア

——ロシア・フォークロアにおける語源的文彩 (figura etymologica)—— 伊東一郎

国立民族学博物館所蔵のドンザ——形態、材質、染織の分析—— 山崎光子



国立民族学博物館

〒565 大阪府 吹田市 千里 万国博記念公園 TEL. 06-876-2151

国立民族学博物館研究報告

6 卷 2 号

1981年6月

目 次

県民性再考

——文章完成法テストにあらわれた日本人パーソナリティの地域差——……………祖父江孝男………… 217

縄文時代の人間-植物関係

——食料生産の出現過程——……………西田 正規………… 234

チノギ賽神における祖上と神霊

——韓国京畿道楊州郡K洞の事例——……………重松真由美………… 256

言語的ブリコラージュとしてのフォークロア

——ロシア・フォークロアにおける語源的文彩 (figura etymologica)——……………伊東 一郎 283

国立民族学博物館所蔵のドンザ

——形態, 材質, 染織の分析——……………山崎 光子………… 319

彙 報…………… 355

国立民族学博物館研究報告寄稿要項…………… 360

国立民族学博物館研究報告執筆要領…………… 361

BULLETIN OF THE NATIONAL MUSEUM OF ETHNOLOGY

Vol. 6 No. 2

June 1981

SOFUE, Takao	Rethinking <i>Kenminsei</i> (Prefectural Personalities): Regional Variations in the Japanese Personality as Indicated by the Sentence Completion Test.....	217
NISHIDA, Masaki	Man—Plant Relationships in Jomon Period and the Emergence of Food Production	234
SHIGEMATSU, Mayumi	Between the Two Worlds in <i>Chinogwi-Kut</i>	256
ITO, Ichiro	Folkloristic Text as a Verbal “Bricolage”: Figura Etymologica in Russian Folklore.....	283
YAMAZAKI, Mitsuko	Notes on <i>Donza</i> Clothes in Japan	319

彙報

(昭和56年1月～
昭和56年3月)

館内各種委員会委員の異動

標本資料評価委員

氏名	任期
森谷 尅久	(56. 3. 1～57. 2. 28)

電子計算機運営委員会委員

氏名	任期
国井 利泰	(56. 3. 16～58. 3. 15)
大林 太良	(56. 3. 16～58. 3. 15)
長尾 真	(56. 3. 16～58. 3. 15)
中山 和彦	(56. 3. 16～58. 3. 15)
辻 三郎	(56. 3. 16～58. 3. 15)
山中 光一	(56. 3. 16～58. 3. 15)
吉田 将	(56. 3. 16～58. 3. 15)
及川 昭文	(56. 3. 16～58. 3. 15)
田中 琢	(56. 3. 16～58. 3. 15)
藤井 知昭	(56. 3. 16～58. 3. 15)
小山 修三	(56. 3. 16～58. 3. 15)
栗田 靖之	(56. 3. 16～58. 3. 15)
中村俊亀智	(56. 3. 16～58. 3. 15)
大給 近達	(56. 3. 16～58. 3. 15)

国内資料調査委員

坪井 洋文	(54. 6. 1～56. 3. 31)
熊谷 清司	(54. 6. 1～56. 3. 31)

シンポジウム

「日本民族文化の源流の比較研究シンポジウムⅡ—シャーマニズム—」

日時 昭和56年1月28日(水)—31日(土)

場所 国立民族学博物館

摘要 このシンポジウムは特別研究「日本民族文化の源流の比較研究」の一環として、各地に展開する種々のシャーマニズムの現象を地域的・歴史的な所産・バリエーションとしてとらえ、日本民族文化の源流をシャーマニズムという宗教現象をとおしてさぐるものが可能かどうかを討論しようとするもので

ある。

実行委員会

委員長

加藤 九祚 国立民族学博物館教授・第四研究部長

副委員長

竹村 卓二 国立民族学博物館教授

委員

岩田 慶治 国立民族学博物館教授
藤井 知昭 国立民族学博物館助教授
石毛 直道 国立民族学博物館助教授

事務局

長野 泰彦 国立民族学博物館助手
中牧 弘允 国立民族学博物館助手
伊東 一郎 国立民族学博物館助手
大塚 和夫 国立民族学博物館助手
関本 照夫 国立民族学博物館助手

参加者

◎報告者

岩田 慶治 国立民族学博物館
佐々木宏幹 駒沢大学文学部
桜井徳太郎 駒沢大学文学部
J・クライナー ボン大学日本文化研究所
柳 東 植 延世大学宗教学部
和田 完 小樽商科大学商学部
加藤 九祚 国立民族学博物館
宮家 準 慶応大学文学部
柳川 啓一 東京大学文学部
宮田 登 筑波大学歴史人類学系
石塚 尊俊
小島 美子 東京芸術大学
内田るり子 国立音楽大学音楽学部
石毛 直道 国立民族学博物館
大林 太良 東京大学教養学部

討論参加者

井狩 彌介 国立民族学博物館
伊東 一郎 国立民族学博物館
伊藤 幹治 国立民族学博物館
煎本 孝 国立民族学博物館
内堀 基光 岐阜大学教養部
B・エアハート ウェスタン・ミシガン大学宗教学科

大塚 和夫 国立民族学博物館
 大塚 和義 国立民族学博物館
 大橋 英寿 東北大学文学部
 楠 正弘 東北大学文学部
 佐々木高明 国立民族学博物館
 佐々木雄司 琉球大学保健学部
 佐藤 久光 種智院大学仏教学部
 重松真由美 国立民族学博物館
 関本 照夫 一橋大学社会学部
 竹村 卓二 国立民族学博物館
 長野 泰彦 国立民族学博物館
 中牧 弘允 国立民族学博物館
 藤井 知昭 国立民族学博物館
 山折 哲雄 東北大学文学部
 李 杜 鉉 ソウル大学校師範大学

日程

1月28日(水)

13:00 座長:竹村 卓二

館長挨拶

13:05 座長:竹村 卓二

問題提起 加藤 九祚

13:40

映画 「ラダックのシャマニズム」

「大元神楽」

15:00—17:15 座長:佐々木高明

「南インド・東南アジアの事例からみた
 シャマニズム構造」 岩田 慶治

3月29日(木) 座長:関本 照夫

10:00—13:00

「南アジアのシャマニズム—華人社会,
 東南アジアをふまえて」 佐々木宏幹

「南西諸島のシャマニズム—とくに巫俗
 の特徴」 桜井徳太郎

「南西諸島におけるシャマニズム的諸現
 象についての一考察」 J・クライナー

14:15—17:15 座長:長野 泰彦

「韓国のシャマニズム—仏教・儒教との
 交渉をふまえて」 柳 東植

「アイヌのシャマニズム—樺太アイヌと
 北海道アイヌとの比較」 和田 完

「キルギスのシャマニズム」

加藤 九祚

3月30日(金) 座長:中牧 弘允

「修験道とシャマニズム」 宮家 準

「シャマニズムの機能論—日本の新宗教
 をふまえて」 柳川 啓一

「神道とシャマニズム」 宮田 登

14:15—17:15 座長:藤井 知昭

「神楽における神懸り・託宣」

石塚 尊俊

「音楽的側面から見たシャマニズムの現
 象—日本の場合—」 小島 美子

「シャマニズムと音楽」 内田りり子

3月31日(土) 座長:伊藤 幹治

10:00—11:15

「つきものの構図—島原半島とガレラ族
 の事例から」 石毛 直道

11:15—12:30

「日本のシャマニズムの系統」

大林 太良

13:30—17:15 座長:加藤 九祚

総括討論

シンポジウム

「日本社会における贈答の数理統計的研究」

シンポジウム 日本人の贈答

日時 昭和56年3月17日(火)—20日(金)

場所 国立民族学博物館

摘要 このシンポジウムは、英・米の研究
 者3名を含む24名の研究者が日本の農
 漁村や都市の贈答慣行の調査を討論
 し、贈答をとおしてみられる日本社会
 の人間関係を分析し考察しようとする
 ものである。

組織委員会

委員長

梅棹 忠夫 国立民族学博物館長

委員

祖父江孝男 国立民族学博物館第一研
 究部長

佐々木高明 国立民族学博物館第二研
 究部長

伊藤 幹治 国立民族学博物館第三研
 究部長

加藤 九祚 国立民族学博物館第四研究部長
 木村 誠 国立民族学博物館管理部長
 運営委員会
 委員長
 伊藤 幹治 国立民族学博物館第三研究部長
 委員
 大塚 和義 国立民族学博物館助教授
 栗田 靖之 国立民族学博物館助教授
 和田 正平 国立民族学博物館助教授
 端 信行 国立民族学博物館助教授
 小山 修三 国立民族学博物館助教授
 杉田 繁治 国立民族学博物館助教授
 大胡 修 国立民族学博物館助手
 中牧 弘允 国立民族学博物館助手
 小川 了 国立民族学博物館助手
 石森 秀三 国立民族学博物館助手
 須藤 健一 国立民族学博物館助手
 八村広三郎 国立民族学博物館助手
 斎藤 晶三 国立民族学博物館管理部
 共同利用係

井上 忠司 甲南大学
 井下 理 国際商科大学
 蒲生 正男 明治大学
 合田 瀧 神戸大学
 小山 修三 国立民族学博物館
 中牧 弘允 国立民族学博物館
 福田アジオ 武蔵大学
 山路 勝彦 関西学院大学
 山本 勇次 東京外国語大学
 吉沢 英成 甲南大学
 和田 正平 国立民族学博物館

日 程

3月17日(火)
 14:30—14:40 座長: 祖父江孝男
 館長挨拶
 14:40—15:10 座長: 祖父江孝男
 基調報告 伊藤 幹治
 「日本社会における贈答の研究—現状と課題—」
 15:10—17:00
 館内見学
 18:00—20:00
 パーティー
 3月18日(水)
 10:30—11:15 座長: ハルミ・ベフ
 研究報告(1) 小川 了
 「贈答以前—アイサツ考—」
 11:15—12:00 座長: ハルミ・ベフ
 研究報告(2) ヘルムート・モーズバッハ
 「西洋人からみた日本人の贈答慣行」
 14:00—14:45 座長: 伊藤 幹治
 研究報告(3) 大胡 修
 「波照間島における贈答慣行と親族関係」
 14:45—15:30 座長: 伊藤 幹治
 研究報告(4) 端 信行
 「沖縄漁民の社会経済と贈答」
 3月19日(木)
 10:30—11:15 座長: 蒲生正男
 研究報告(5) 石森 秀三
 「死と贈答—不祝儀帳による人間関係の分析—」

参加者

◎報告者

石森 秀三 国立民族学博物館
 伊藤 幹治 国立民族学博物館
 大胡 修 国立民族学博物館
 大塚 和義 国立民族学博物館
 小川 了 国立民族学博物館
 栗田 靖之 国立民族学博物館
 杉田 繁治 国立民族学博物館
 須藤 健一 国立民族学博物館
 端 信行 国立民族学博物館
 ハルミ・ベフ スタンフォード大学
 ロバート・C・マーシャル
 ビッツバーグ大学
 ヘルムート・モーズバッハ
 グラスゴー大学

◎討論参加者

石川 栄吉 東京都立大学

11: 15—12: 00 座長：蒲生 正男
 研究報告(6) ロバート・C・マーシャル
 「御祝儀—日本農村における新たな贈答
 慣行—」
 14: 00—14: 45 座長：石川 栄吉
 研究報告(7) 須藤 健一
 「職業（大工）集団における贈答」
 14: 45—15: 30 座長：石川 栄吉
 研究報告(8) 大塚 和義
 「アイヌの贈答慣行」
 15: 45—16: 30 座長：石川 栄吉
 研究報告(9) 杉田 繁治
 「贈答のモデル論的考察」

3月20日（金）
 10: 30—11: 15
 座長：ヘルムート・モーズバッハ
 研究報告(10) ハルミ・ベフ
 「文化的概念としての“贈答”の考察」
 11: 15—12: 00
 座長：ヘルムート・モーズバッハ
 研究報告(11) 栗田 靖之
 「贈答を通じて見た交際範囲と心理的関
 係」
 14: 00—15: 30 座長：栗田 靖之
 統合討論
 15: 30—15: 40 座長：栗田 靖之
 閉会挨拶

海外における研究・調査・収集活動

氏名	官職	出発	帰国	行先
大丸 弘	助教授（第5研究部）	56. 1.15	56. 3. 1	フランス
守屋 毅	助教授（第1研究部）	56. 1.22	57. 1.21	アメリカ合衆国
吉本 忍	助手（第2研究部）	56. 1.25	56. 2.14	インドネシア共和国
藤井 知昭	助教授（第2研究部）	56. 3. 1	56. 3.12	インド
加藤 九祚	教授（第4研究部）	56. 3.11	56. 3.28	ブータン、インド
吉本 忍	助手（第2研究部）	56. 3.25	57. 3.24	インドネシア共和国
大胡 修	助手（第1研究部）	56. 3.29	57. 3.28	アメリカ合衆国、ペルー、ブラジル
君島 久子	教授（第1研究部）	56. 3.29	56. 4. 5	中華人民共和国
大塚 和夫	助手（第3研究部）	56. 3.31	57. 9.30	エジプト、アラブ共和国

来館者抄

1月9日 岡崎 敬（九州大学教授 文学部）
 22日 MARDJONO（インドネシア大学長）
 27日 Yulian BROMLEY (Director, Institute of Ethnography, Academy of Science of the USSR)
 28日 Joseph KREINER（ボン大学日本文化研究所長）
 片寄 俊秀（長崎総合科学大学教授）
 2月16日 Hesung Chun KOH (Director,

Research and Development, HRAF)
 美濃 眞(大阪医科大学教授)
 亀山 正邦（京都大学教授 医学部）
 小林 登（東京大学教授 医学部）
 白木 和夫（東京大学助教授 医学部）
 17日 中川 一郎（京都大学助教授 理学部）
 24日 中国社会科学院考古・古代史学者代表団

- | | | | |
|------|------------------------------|-------|---|
| | 王 仲 殊 (中国社会科学院
考古研究所・団長) | | 石 光 (遼寧社会科学院) |
| | 林 甘 泉 (中国社会科学院
歴史研究所・副団長) | | 何 方 (中国社会科学院
日本研究所) |
| | 胡 厚 宣 (中国社会科学院
歴史研究所) | | 石 静 山 (吉林社会科学院) |
| | 黄 展 岳 (中国社会科学院
考古研究所) | 10日 | 李 克 世 (中国社会科学院
外事局) |
| | 徐 苹 芳 (中国社会科学院
考古研究所) | 24日 | 齋藤 吉雄 (東北大学文学部長) |
| | 劉 永 成 (中国社会科学院
歴史研究所) | | インドネシア国学術指導者代表
団 |
| | 王 世 民 (中国社会科学院
考古研究所) | | Doddy A. Tisna AMIDJAJA
(Director General, DGHE) |
| | 陳 高 華 (中国社会科学院
歴史研究所) | | S. PRAMOETADI (Director for
Academic Affairs, DGHE) |
| | 呂 文 忠 (中国社会科学院
外事局) | | Achjani ATMAKUSUMA (Direc-
tor for Research and Com-
munity Service, DGHE) |
| 3月2日 | 久保田 勉 (甲南女子大学教授
文学部) | | Yuhara SUKRA (Chief Mana-
gement Team of the Ph. D.
Program, DGHE) |
| | 藤原 英夫 (甲南女子大学教授
文学部) | | M. ARSJAD (Chief, Sub-
Directorate of Institutional
Cooperation of Higher Edu-
cation, DGHE) |
| | 和田 邦平 (甲南大学教授 文
学部) | | SUJUDI (Vice-Rector, Univer-
sity of Indonesia) |
| 4日 | 中国社会科学院代表团 | 3月31日 | Nyam-Osor TSULTEM (モンゴ
ル芸術家同盟議長) |
| | 宦 郷 (中国社会科学院
北京大学教授 団長) | | |
| | 王 剛 (中国社会科学院
外事局) | | |

国立民族学博物館研究報告寄稿要項

1. 国立民族学博物館研究報告は、民族学（文化人類学）に関する論文、資料・研究ノート、調査研究活動報告等を掲載・発表することにより、民族学（文化人類学）の発展に寄与するものである。
2. 国立民族学博物館研究報告に寄稿することができる者は、次のとおりとする。
 - (1) 国立民族学博物館（以下「本館」という。）の教官（客員教授等を含む。）及び本館の組織運営に関与する者
 - (2) 本館が受け入れた各種研究員及び研究協力者
 - (3) その他本館において適当と認めた者
3. 原稿を寄稿する場合は、論文、資料・研究ノート、調査研究活動報告等のうち、いずれであるかをその表紙に明記するものとする。なお、この区分についての最終的な調整は、国立民族学博物館研究報告編集委員会（以下「編集委員会」という。）において行う。（編集する場合は、原則として論文及び資料・研究ノートを1段組、その他のものを2段組として取り扱う。）
4. 原稿執筆における使用言語は、日本語、英語、フランス語、スペイン語、ロシア語、中国語及びドイツ語のうちいずれを用いても差し支えない。ただし、その他の言語を用いる場合は、編集委員会に相談するものとする。
5. 特殊な文字、記号、印刷方法等が必要な場合は、編集委員会に相談するものとする。
6. 寄稿する原稿が論文で、日本語を使用する場合は、原則として英文により500語程度の要旨を付けるものとし、その他の言語による論文の場合は、編集委員会に相談するものとする。なお、寄稿する原稿については、執筆者名のローマ字表記及び原稿表題の英文を付記しなければならない。
7. 寄稿する原稿の枚数は、原則として制限しない。ただし、編集する場合は編集委員会の判断により、紙数等の関係から分割して掲載することがある。
8. 寄稿する原稿は、必ず清書（欧文の場合はタイプ）し、原稿の写し1部を添付するものとする。なお、図、表のシミ入れ、レタリングは、編集委員会で処理する。
9. 寄稿された原稿は、審査委員会において審査のうえ、採否を決定する。なお、原稿は、採否にかかわらず原則として返却しない。
10. 稿料の支払い、掲載料の徴収は行わない。
11. 原稿の執筆に当っては、別に定める「国立民族学博物館研究報告執筆要領」による。
12. 原稿の寄稿先及び連絡先は、次のとおりとする。

〒565 大阪府吹田市千里 万博公園10-1
国立民族学博物館内
国立民族学博物館研究報告編集委員会（電話 代表 06-876-2151）

国立民族学博物館研究報告執筆要領

1. 原稿は、200字詰原稿用紙を使用し、横書きとする。
2. 原稿は、図、表を除き、原則として黒インクを使用する。
3. 日本語を使用して執筆する場合は、原則として当用漢字、現代かなづかいを用いる。
4. 句読点、括弧、各種記号等は、原則として原稿用紙のマス目1字分の扱いをする。
5. 原稿中の年号、月日及びその他の数字は、原則としてアラビア数字を用いる。なお、年号は、原則として西暦とする。
6. 図及び表は、一図、一表ごとに別紙に書き、本文とは別に一括して添付するものとする。なお、図、表ごとに通し番号（「図1」、「表1」等の要領により記入）、図、表名及び説明並びに出典等を記し、本文原稿の欄外には、それぞれのそう入箇所を指定するものとする。
7. 写真は、写りの明瞭なもので、手札判以上の大きさに焼き付けたものに限る。図及び表の扱いに準じて通し番号、説明を付けたうえ、そう入箇所を指定するものとする。ただし、カラー写真は、原則として受け付けない。
8. 本文又は脚注において文献を指示する場合は、カギ括弧を付け、著者名、文献刊行年次、引用ページ数の順に下記の例に従って記載する。

[柳田 1942: 67-69]

[Leach 1961: 123]

[柳田 1942: 67-69, 1944: 20-22; Leach 1961: 123]

ただし、同年次刊行物の場合は、アルファベット順により、下記のように記載するものとする。

[柳田 1942a: 20-22] [柳田 1942b: 10]

9. 脚注は、一つ一つ別紙に記し、通し番号を付ける。なお、本文中に脚注をそう入する箇所には、脚注の当該番号を記入し、別紙の脚注には、本文のページ数を明記するものとする。
10. 本文及び脚注において参照した文献は、すべて原稿の末尾にまとめて下記の方法により記入する。
 - (1) 文献の配列は、著者名のアルファベット順とすること。
 - (2) 文献の記載は、著者名、年号、論題（タイトル）、誌名、巻、号、出版社名の順とすること。欧文の雑誌名及び単行本名は、イタリック体にするため、原稿には下線を引くこと。また、ローマ字人名は、スモール・キャピタルとするため、二重下線を引き、日本文の場合は、論題にカギ括弧、雑誌名及び単行本名に二重のカギ括弧を付けること。雑誌の巻数及び号数は、原則としてアラビア数字を用いること。

(例)

論文の場合 (1)

石田英一郎

1948 「文化史的民族学成立の基本問題」『民族学研究』13(4): 311-330。

Bohannan, P.

1973 Rethinking Culture: A Project for Current Anthropologist. Current Anthropology 14(4): 357-372.

論文の場合 (2)

杉浦 健一

1942 「民間信仰の話」柳田国男編『日本民俗学研究』岩波書店, pp. 117-143。

Leach, Edmund

- 1964 Anthropological Aspects of Language: Animal Categories and Verbal Abuse.
In Eric H. Lennenberg (ed.), New Directions in the Study of Language,
The M. I. T. Press, pp. 23-63.

単行本の場合

泉 靖一

- 1966 『文明をもった生物』 日本放送出版協会。

Murdock, George P. (ed.)

- 1960 Social Structure in Southeast Asia. Viking Fund Publications in Anthropology No. 29, Wenner-Gren Foundation for Anthropological Research, Inc.

翻訳書の場合

エリアーデ, M.

- 1974 『シャーマニズム——古代的エクスタシー技術——』 堀 一郎訳 冬樹社。

van Gennep, Arnold

- 1960 The Rites of Passage. M. B. Vizedom and G. L. Caffee, trans., The University of Chicago Press.

国立民族学博物館研究報告 6卷2号

監 修
梅 棹 忠 夫
編集委員長
伊 藤 幹 治
編 集 委 員
石 森 秀 三
煎 本 孝 子
片 倉 素 子
竹 村 卓 二
垂 水 稔
松 原 正 毅
吉 田 集 而

昭和 56 年 10 月 31 日 発 行 非 売 品

国立民族学博物館研究報告 6卷2号

編集・発行 国立民族学博物館

〒565 吹田市千里万博公園 10-1

TEL 06 (876) 2151 (代表)

印 刷 中 西 印 刷 株 式 会 社

〒602 京都市上京区下立売通小川東入

TEL 075 (441) 3155 (代表)

Bulletin of the National Museum of Ethnology
vol. 6 no. 2
June 1981

SOFUE, Takao

Rethinking *Kenminsei* (Prefectural Personalities): Regional Variations in the Japanese Personality as Indicated by the Sentence Completion Test

NISHIDA, Masaki

Man-Plant Relationships in Jomon Period and the Emergence of Food Production

SHIGEMATSU, Mayumi
ITO, Ichiro

Between the Two Worlds in *Chinogwi—kut*
Folkloristic Text as a Verbal "Bricolage"
—Figura Etymologica in Russian Folklore—

YAMAZAKI, Mitsuko

Notes on *Donza* Clothes in Japan



National Museum
of Ethnology

Senri Expo Park, Suita, Osaka, Japan
phone 06-876-2151

ISSN 0385-180X